送辞

　舞鶴城公園の桜の蕾も色づき始め、春の訪れを感じる今日、晴れて、山梨大学を卒業・修了される皆様、ご卒業おめでとうございます。在学生一同、心よりお祝い申し上げます。

　皆様は数年前、この山梨大学に入学されました。それから友人と出会い、様々な経験をし、その月日は多くの思い出に埋め尽くされ、一瞬のことのように感じられたのではないでしょうか。共に笑いあい、課題に悩み、サークルなどで汗を流したことでしょう。こうして山梨大学で過ごした時間は皆様の人生の中でも色あせることのない思い出として深く胸に刻まれたのではないかと感じております。

　私達は皆様に勉学や部活・サークルをはじめとした様々な場面で助けて頂き、その背中を見つめながら、大学生活を過ごしてまいりました。皆様が卒業・修了されることは嬉しくもあり、同時に皆様のように後輩たちの手本となる上級生となれるのか不安な気持ちもあります。しかし、山梨大学の先輩方が繋いできた伝統を後輩達へ繋いで行けるように、私達も精進していく所存です。

　さて、昨年は、1年延期されていた東京オリンピックが開かれました。日本をはじめ、世界各国のアスリートの活躍は、多くの人に感動を与えたのではないでしょうか。その中で、競泳の池江璃花子選手は急性リンパ性白血病から1年半も経たないうちに回復し、東京五輪の代表として活躍されました。池江選手は3歳の時から水泳を始め、毎日のようにプールへ通い続け、水泳は「日常」そのものだったと言います。池江選手が語っていた「当たり前に感じていることは、当たり前ではなくなった時にその大切さに気づく」という言葉に私は心を打たれました。
　新型コロナウイルスの影響により、一昨年から皆様を含めた多くの学生への講義はオンライン授業となりました。友人と授業を受ける“当たり前”の日常が失われ、多くの行事が中止になり、やるせない気持ちになったのではないかと思います。
　しかし、このような中でも、オンラインディスカッションや、期末考査などの対面で集まった際に、友人と少し言葉を交わすことで「当たり前」だった日常の喜びを再確認し、その喜びに感謝することもあったのではないでしょうか。
　この先、皆様はそれぞれの道へ羽ばたかれ、その先にはたくさんの困難が待ち受けていることでしょう。自分の力ではどうすることもできないような困難に直面することも恐らくあるはずです。しかし、この変化する時代に柔軟に対応し、日々の喜びに感謝できる皆様であれば、仲間と協力し、一歩一歩前へ進んでいけることと思います。山梨大学で過ごした日々をどうか忘れず、その思い出を糧に未来へ羽ばたいていかれることを願っています。

　最後になりましたが、皆様の今後のさらなる御活躍と御多幸をお祈りしつつ、在学生一同、心よりお祝いを申し上げ、卒業・修了される皆様への送辞とさせて頂きます。

令和四年三月十八日
山梨大学在学生代表
工学部メカトロニクス工学科3年　佐藤創哉